

赤こんりポート

東恵子リポーター



地域とつながり、笑顔の居場所に

近江八幡市障がい児余暇支援クラブ「はちの子」で大学時代ボランティアをしていた、おうみ作業所職員の月田恵さん。なぜ、障がい者支援をしようと思ったのでしょうか。「小学生の時、手話や盲導犬について学んだことが、きっかけの1つです。大学のサークル活動でボランティアセンターに行くようになりました。そこで、はちの子のチラシを見つけ、ドキドキしながら問い合わせました」

はちの子で関わった子どもたちが、今年も作業所の仲間。「地域のつながりを大事にして、成長していきたいです」と朗らかに話していました。

赤こんりポート

今井良治リポーター

来月5日、湖国で全国育樹祭開催
4人の近江八幡市緑の少年団員が出演

天皇皇后両陛下がリモートでご臨席され、6月5日に甲賀市「鹿深夢の森」で県内では47年ぶりに開催される第72回全国植樹祭の記念式典に、近江八幡市緑の少年団から宮田虎太郎さん、橋口悠人さん、辻谷涼さん、相川音彩さんの4人の小学6年生団員が出演します。4人は、式典の終盤で滋賀県から次期開催地・岩手県へ大会シンボルの「木製地球儀」を受け渡す両知事による「リレーセレモニー」をサポートします。

4月16日、近江八幡駅南口の花壇の手入れに他の団員と共に汗を流していた4人は、はにかみながらもみんなの期待に応えようと張り切っていました。



赤こんりポート

松村美沙枝リポーター



夢と希望をのせて プレイボール！

桐原小学校で3月27日、令和4年度近江八幡軟式野球連盟学童の部の開会式が行われました。新型コロナが猛威を振るい、直近まで活動休止を余儀なくされていた子どもたち。晴れやかな空の下、野球ができる喜びをかみしめているようでした。式には、大喜多悦子教育長ら多数の来賓が出席。「試合に出る人も出ない人も、同じ立場で同じ気持ちで頑張ることを忘れないで」とエールを送り、その後、各チームが開幕戦に臨みました。

4月4日

「チョコとした気遣いから始める交通安全！」
春の交通安全運動

4月6日～15日の春の全国交通安全運動期間を前に、近江八幡地区春の交通安全運動出動式が近江八幡警察署で行われました。

この日は、フランスで開催された洋菓子の世界大会で準優勝した経験を持つ、株式会社クラブハリエのシェフショコラティエ・原田誠也さんが一日警察署長を務めました。

同署でパトカーや白バイなどの啓発車両の出動式が行われた後は、ラコリーナ近江八幡で、交通安全をPRする「チョコとした気遣いから始める交通安全！」とメッセージを添えたチョコレート、警察署員や交通安全協会、安全運転管理者協会らとともに観光客らに配りました。

3月19日

人間のいのちと健康、尊厳を守り70年
市赤十字奉仕団結成70周年記念大会が開催

「人間のいのちと健康、尊厳を守る」の理念に基づき奉仕団活動などを行う近江八幡市赤十字奉仕団が結成70周年を迎え、市文化会館大ホールで記念大会が開催されました。この日は、長年、団員として奉仕活動などを行ってきた人や奉仕団の発展などに尽力した人への表彰や感謝状が贈呈されました。また、昨年6月から実施された新型コロナウイルスワクチンの集団接種で、会場の案内や誘導にあたった約230人の団員らの活動に対し、小西理市長が感謝状を贈呈しました。最後に、長浜赤十字病院副院長の塩見尚礼さんが「コロナ禍に負けず 赤十字活動を行うために」と題して記念講演を行いました。

3月29日

沖島地域水産業再生委員会に
「浜の活力再生プラン」の優良事例として表彰状

全国漁業協同組合連合会と水産庁が表彰する、地域の特性を活かし、地域の水産業・漁業振興を目指す取り組みの優良事例として、沖島地域水産業再生委員会が「全国共済水産業協同組合連合会会長賞」を受賞しました。

同会は平成30年に発足。強い発信力や女性の活躍、積極的な若手漁業者の育成などが評価されました。

同会代表の奥村繁さんは「今回の受賞を契機に、皆さんに沖島への関心を持っていただき、後継者の育成や島の活性化につながる活動をしていきたい」と話しました。

4月12日

より充実した教育・保育環境へ
馬淵こども園が開園

学区内の児童数減少を受けた集団性の維持と、待機児童の解消に向けて3歳以上児の受け入れ枠を拡大するため、市立馬淵幼稚園が4月1日付けで認定こども園に移行し、開園式が開催されました。

認定こども園は、幼稚園・保育所の両方の良さをあわせ持つ施設で、市内の公立認定こども園としては、武佐こども園、老蘇こども園に続き3園目の開園となります。

開園式では、5歳児あやめ組の園児13人が「祝 まぶちこどもえん」「かいえんおめでとう」と書かれた2つのくす玉を割ると、会場に大きな拍手が起こりました。

3月26日

沖島散策橋 3年間にわたる改修協力に感謝
沖島自治会から奥井総建に感謝状を贈呈

沖島で、林道や散策道の再整備のほか案内看板の設置や草刈りなどを行ってきた「近江八幡市里山再生整備事業」の3年間にわたる事業が終了し、沖島自治会から企業ボランティアとして参画していた奥井総建に感謝状が贈呈されました。

この事業では、沖島小学校から弁財天（厳嶋神社）までを結んでいる散策道にかかる8本の橋のうち、老朽化しているものを順次改修し、これまでに計4本の橋を改修。

同自治会副会長の茶谷昭一さんは「老朽化した橋が順次改修され、観光客をはじめ、地元住民に安心して通行してもらえると喜んでいました。奥井総建の奥井敦史代表は「これからも、困っていることがあれば助けたい」と話しました。